

令和4（2022）年度 年報

- 企画展

- ・生誕100年 富岡惣一郎展－白、追い求めて－
- ・生誕100年 斎藤真一展 瞽女と郷愁、さすらい
- ・芸能科の記憶 学び舎から飛び立った作家たち
- ・コレクション展「かわいい美術」

- 教育普及事業

- 作品収集・保管・管理事業
- 調査研究事業等
- 広報活動等

(1) 企画展の概要

展覧会名：生誕100年 富岡惣一郎展 一白、追い求めて―

会期：令和4年3月26日（土）～6月19日（日）78日間

会場：小林古径記念美術館

開催内容：当館所蔵の富岡作品を中心に初期から晩年までの画業を辿る展覧会を開催した。あわせて、上越市役所にある富岡作品を紹介した。

主な展示作品：《街》、《NY マンハッタン》、《熊野 大杉谷》、《NY 早春 梢》、《妙高山》、《花火》2点（上越市立南本町小学校蔵）
富岡惣一郎愛用画材（南魚沼市トミオカホワイト美術館蔵）ほか

その他：・観桜会期間中（3月26日～4月17日）は無休、19:00まで延長開館した。

・5月18日（水）は「国際博物館の日」を記念して入館無料。

・本展会期中に「南魚沼市トミオカホワイト美術館」との相互割引を実施した。割引券を発行し、券と引き換えに団体料金に減免した。

担当学芸員：小川陽子・市川高子



(2) 入館者の状況

区分	有料	無料	合計
一般	3,603人	1,397人	5,000人
幼・小・中・高	308人	469人	777人
計	3,911人	1,866人	5,777人

・1日平均74人、有料入館率68%

・トミオカホワイト美術館との相互割引利用者：一般29人、小・中・高生0人

〈展示作品リスト〉

作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	備考
■企画展 「生誕100年 富岡惣一郎」：企画展示室					
第1章 “白の世界”へ					
街	1958(昭和33)	45.5×32.8	カンヴァス・油彩	額装	
木立	1960(昭和35)頃	31.8×41.0	カンヴァス・油彩	額装	
NY マンハッタン	1969(昭和44)	89.7×71.5	カンヴァス・油彩	額装	
雪林	1971(昭和46)頃	52.0×64.0	カンヴァス・油彩	額装	
木	1971(昭和46)頃	72.7×60.6	カンヴァス・油彩	額装	
ダンビラ	—	長さ:84.0			南魚沼市トミオカホワイト美術館蔵
パレットナイフ	—	長さ:72.5			南魚沼市トミオカホワイト美術館蔵
ペインティングナイフ	—	—			南魚沼市トミオカホワイト美術館蔵
トミオカホワイト絵具缶	—	高さ:11.0			南魚沼市トミオカホワイト美術館蔵
第2章 内面世界へ					
熊野 大杉谷	1971(昭和46)	91.0×72.7	カンヴァス・油彩	額装	
原生林	1971(昭和46)	72.0×59.7	カンヴァス・油彩	額装	
京都 南禅寺	1973(昭和48)	52.0×64.0	カンヴァス・油彩	額装	
雪国	1972(昭和47)	91.0×72.7	カンヴァス・油彩	額装	
冬 岬	1973(昭和48)	53.0×45.5	カンヴァス・油彩	額装	
北海道 大沼駒ヶ岳雪景	1975(昭和50)	116.3×90.5	カンヴァス・油彩	額装	

仙秋ライン	1975(昭和50)	100.0×80.3	カンヴァス・油彩	額装	
北海道 ニセコ・アンヌプリ	1975(昭和50)	64.2×52.0	カンヴァス・油彩	額装	
狩場山 原生林	1975(昭和50)	60.6×72.7	カンヴァス・油彩	額装	
雪 信濃川源流	1976(昭和51)	44.3×36.9	カンヴァス・油彩	額装	
妙高山	1976(昭和51)	72.0×60.0	カンヴァス・油彩	額装	
つるぎ岳	1978(昭和53)	59.6×71.8	カンヴァス・油彩	額装	
雪 山並み	1978(昭和53)	89.5×71.5	カンヴァス・油彩	額装	
原生林「濃の墨絵」	1979(昭和54)	84.5×58.3	紙・墨	額装	
N Y 早春 梢「濃の墨絵」	1979(昭和54)	84.5×58.3	紙・墨	額装	
冬 野沢高原	1976(昭和51)	31.0×39.8	カンヴァス・油彩	額装	

第3章 新たな画境へ

冬 白馬岳	1981(昭和56)頃	64.2×52.0	カンヴァス・油彩	額装	
霧 桂林山水	1982(昭和57)	160.9×129.2	カンヴァス・油彩	額装	
妙高山	1983(昭和58)頃	130.3×95.5	カンヴァス・油彩	額装	
雪 信濃川	1984(昭和59)	59.6×71.5	カンヴァス・油彩	額装	
雪 信濃川	1984(昭和59)	97.0×130.3	カンヴァス・油彩	額装	
冬 川	1984(昭和59)	44.3×36.6	カンヴァス・油彩	額装	
釧路湿原雪景A	1988(昭和63)	160.6×129.6	カンヴァス・油彩	額装	
釧路湿原雪景B	1988(昭和63)	160.6×129.6	カンヴァス・油彩	額装	
エルドリッジ氷河・マッキンレー山脈	1987(昭和62)	161.0×129.8	カンヴァス・油彩	額装	
花火	1989(平成元)	52.0×44.5	カンヴァス・油彩	額装	上越市立南本町小学校蔵
花火	1989(平成元)	52.0×44.5	カンヴァス・油彩	額装	上越市立南本町小学校蔵
雪国の四季 晩秋	1990(平成2)	129.4×97.4	カンヴァス・油彩	額装	
冬 吹雪	1992(平成4)	44.2×52.0	カンヴァス・油彩	額装	
雪雲 八海山	1993(平成5)	14.5×21.5	カンヴァス・油彩	額装	
雪雲 奥穂高	1993(平成5)	14.5×21.5	カンヴァス・油彩	額装	

■特集展示「トミオカのバード・アイ」：ギャラリー・二ノ丸ホール

雪山	1980年代	32.2×23.0	カンヴァス・油彩	額装	
妙高山	1976(昭和51)	44.0×36.5	カンヴァス・油彩	額装	
谷川新雪	1985(昭和60)	71.5×59.2	カンヴァス・油彩	額装	
雪 オンネトー湖	1988(昭和63)	32.4×23.4	カンヴァス・油彩	額装	
富士山	1984(昭和59)頃	26.5×21.0	カンヴァス・油彩	額装	
アラスカ氷河	1987(昭和62)	32.2×23.2	カンヴァス・油彩	額装	
雪 信濃川	1984(昭和59)	59.0×71.4	カンヴァス・油彩	額装	

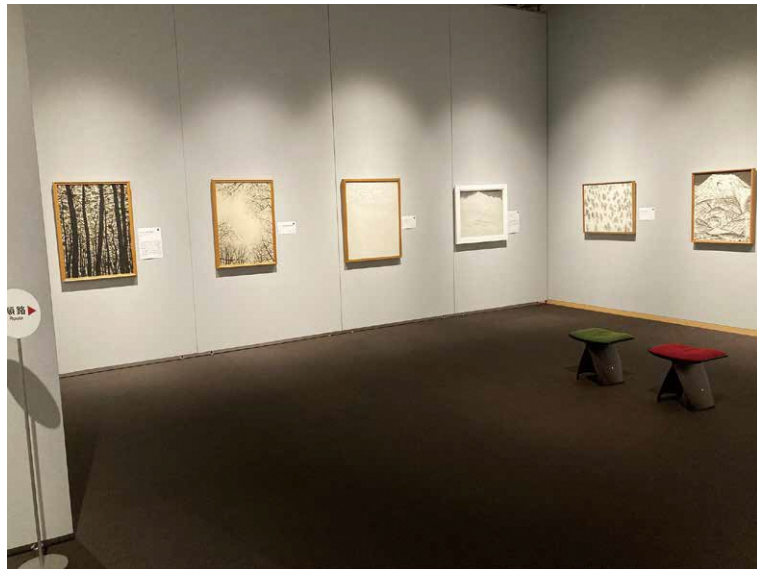
■小林古径常設展「小林古径 人と作品」：古径記念室

羽衣	1919(大正8)頃	125.6×41.6	絹・彩色	軸装	高橋信雄氏寄贈
鶴	1927(昭和2)	142.0×51.4	絹・彩色	軸装	田中産業株式会社寄託
蓼(習作)	1940年代	73.4×46.5	紙・彩色	軸装	Jマテ.ホールディングス株式会社寄託
尾長鳥	1946(昭和21)頃	46.8×66.0	絹・彩色	軸装	齋藤弘氏寄贈
果実	1951(昭和26)	26.6×24.2	紙・墨	軸装	株式会社井上商会寄贈
鶴鶴	1943(昭和18)	27.6×23.6	紙・彩色	軸装	
ヒオウギ(写生)	1901(明治34)	13.0×19.0	紙・鉛筆・墨・淡彩	額装	
タマシダレ(写生)	1901(明治34)	13.0×19.0	紙・鉛筆・墨・淡彩	額装	
菖蒲(写生)	1951(昭和26)	50.0×34.0	紙・淡彩	額装	
枇杷(写生)	1949(昭和24)	36.7×49.8	紙・鉛筆・淡彩	額装	
ばら(写生)	1949(昭和24)	26.0×34.0	紙・鉛筆・淡彩	額装	
小林古径手製 料紙文庫	明治時代末期	38.0×26.0×10.5	紙・竹・彩色		
小林古径旧蔵 旅硯	—	12.5×6.8×1.5	木・石・金属		
梶田半古塾寄書き	明治時代末期	35.5×6.0	紙・墨・淡彩	額装	
小林古径 清水義雄宛はがき	1910(明治43)	14.0×9.1	紙・墨・淡彩		
写生帖	明治時代末期	13.6×18.5	紙・墨・淡彩		

(3) 展覧会関連イベント

イベント名	実施日	参加者数	内 容
ホワイト茶席	① 3月26日(土) ② 3月27日(日) ③ 4月2日(土) ④ 4月3日(日) 各回 10:00～16:00	① 32人 ② 12人 ③ 25人 ④ 15人 計 84人	白をテーマにしたお茶会を美術館ボランティアの協力を得て古径邸で実施した。(抹茶と和菓子付で参加費 700 円)
学芸員による ギャラリートーク	① 4月24日(日) ② 5月15日(日) ③ 5月29日(日) ④ 6月5日(日) 各回 13:30～14:30	① 15人 ② 15名 ③ 10名 ④ 15名 計 55人	学芸員が展示作品や作家等について解説を行った。 〈主な内容〉 ・展示概要、富岡惣一郎と作品解説、市役所所在の富岡作品について
古径邸 庭園ツアー	5月4日(水・祝) 10:00～11:00	13人	学芸員と一緒に古径邸庭園を散策するイベント。古径邸のなかも一緒に見学し、建築の魅力について解説を行った。
学芸員とめぐる 上越市役所富岡作品ツアー	5月17日(火) 13:20～14:30	13人	上越市役所木田庁舎内にある富岡作品を学芸員と一緒にめぐるツアーを開催した。 〈見学場所〉 上越市議会議場、議長室、市議会応接室、4階廊下、秘書課応接室など
飛雪忌	5月31日(火)	配布者 100人	富岡惣一郎の命日を偲んで、展覧会入館者先着 100名に富岡惣一郎《妙高山》の絵はがきをプレゼントした。
どようワークショップ 「塗って・削って 雪の風景を描こう」	会期中の土曜日 10:00～12:00	一 般：23人 子 ども：15人 計 38人	富岡惣一郎の作品にちなみクレヨンで画面を塗りつぶした後に白い絵の具を重ね、乾く前にヘラや爪楊枝で削り取って雪の風景を描くワークショップを開催した。(合計 10 回)

「富岡惣一郎展」展示風景



(1) 企画展の概要

展覧会名：生誕100年 斎藤真一展 瞽女と郷愁、さすらい

会期：令和4年7月2日（土）～9月25日（日）80日間

会場：小林古径記念美術館

開催内容：当館所蔵の斎藤作品を中心に初期から晩年までの画業を紹介した。

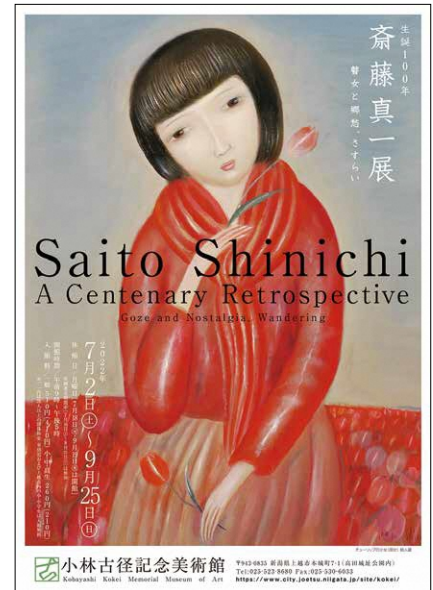
主な展示作品：《白壁の風景》《ランプと簪》（小林古径記念美術館蔵）、《さすらい》（個人蔵）、《瞽女唄》《あげ石瞽女・神保瞽女一覽》（小林古径記念美術館蔵）、《チューリップの少女》（個人蔵）、《紅いヴィオロン》（個人蔵）

※上記作品のほか、斎藤真一使用の画材道具（アトリエの再現）の展示及び画像資料と映像資料を展示室内で上映した。

その他：・観覧会期間中（7月16日～8月21日）は無休。

・本展会期中に斎藤真一の瞽女作品を展示している「瞽女ミュージアム高田」との相互割引を実施した。割引券を発行し、券と引き換えに団体料金に減免した。

担当学芸員：笹川修一・小川陽子



(2) 入館者の状況

区分	有料	無料	合計
一般	2,101人	712人	2,813人
幼・小・中・高	145人	216人	361人
計	2,246人	928人	3,174人

・1日平均40人、有料入館率70%

・瞽女ミュージアム高田との相互割引利用者：一般67名、小・中・高生2名

〈展示作品リスト〉

作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	備考
■生誕100年 斎藤真一展 瞽女と郷愁、さすらい					
第1章 初期作品から					
白壁の風景	1940(昭和15)頃	23.2 × 32.5	カンヴァス・油彩	額装	
鶏小屋	1948(昭和23)	63.8 × 51.7	カンヴァス・油彩	額装	
曇り日(岡山風景)	1957(昭和32)	21.5 × 22.2	カンヴァス・油彩	額装	
ナボリの夏	1959(昭和34)	22.4 × 31.5	カンヴァス・油彩	額装	
北の海	1961(昭和36)頃	32.0 × 44.3	カンヴァス・油彩	額装	
越後の店	1962(昭和37)	45.5 × 53.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
さすらい	1960(昭和35)	130.3 × 97.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
軽気球	1962(昭和37)	52.0 × 44.5	カンヴァス・油彩	額装	
入江の乙女	1963(昭和38)	25.3 × 20.8	カンヴァス・油彩	額装	
ランプと簪	1963(昭和38)	52.1 × 40.0	カンヴァス・油彩	額装	
街角(デッサン)	1953(昭和28)12月	26.2 × 23.4	紙・ペン・淡彩	額装	
下田(デッサン)	1954(昭和29)	25.7 × 37.0	紙・コンテ	額装	
伊豆 落居(デッサン)	1965(昭和40)	26.0 × 22.9	紙・淡彩	額装	
第2章 『越後瞽女日記』の誕生					
瞽女唄『越後瞽女日記』	1972(昭和47)	34.0 × 34.0	カンヴァス・油彩	額装	
瞽女 キクエと桜『越後瞽女日記』	1969(昭和44)	44.7 × 37.2	カンヴァス・油彩	額装	
瞽女 杉本キクエ『越後瞽女日記』	1969(昭和44)頃	26.5 × 21.2	板・油彩	額装	
杉本キクエ旅姿 杉本家瞽女『越後瞽女日記』	1971(昭和46)	44.5 × 37.0	カンヴァス・油彩	額装	
越後高田瞽女宿之図	1969(昭和44)	56.9 × 148.4	紙・ペン・淡彩	額装	
『越後瞽女日記』杉本家上り框	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後瞽女日記』杉本家にて	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後瞽女日記』東本町の雁木	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後瞽女日記』東頭城の雪	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後瞽女日記』西横山	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵

『越後警女日記』 高住の停留所内	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後警女日記』 土口の土橋	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
『越後警女日記』 門付 須川	1970(昭和45)頃	44.2 × 36.6	紙・ペン・水彩	捲り	個人蔵
あげ石警女・神保警女一覽『越後警女日記』	1971(昭和46)	各 52.2 × 45.0	カンヴァス・油彩	額装	
佐久の旦那『越後警女日記』	1969(昭和44)	44.0 × 36.4	カンヴァス・油彩	額装	
かとうの死『越後警女日記』	1972(昭和47)	60.0 × 49.4	カンヴァス・油彩	額装	
鴛口の雷『越後警女日記』	1985(昭和60)頃	59.5 × 49.2	カンヴァス・油彩	額装	
西頸城の警女『越後警女日記』	1976(昭和51)	45.5 × 33.3	カンヴァス・油彩	額装	
西頸城能生の駅・待合室にて『越後警女日記』	1969(昭和44)	64.2 × 48.7	カンヴァス・油彩	額装	
待合室 難波コトミ『越後警女日記』	1975(昭和50)頃	53.0 × 45.5	カンヴァス・油彩	額装	
明星 二本木の雪『越後警女日記』	1992(平成4)	23.0 × 32.5	カンヴァス・油彩	額装	
花野の道『越後警女日記』	1979(昭和54)	23.0 × 32.5	板・油彩	額装	
十三の砂山『津軽じょんから警女日記』	1974(昭和49)	23.2 × 32.2	板・油彩	額装	
青い昇天『津軽じょんから警女日記』	1976(昭和51)	39.7 × 30.7	カンヴァス・油彩	額装	
お春の祈り『お春警女物語り』	1974(昭和49)	32.0 × 23.0	板・油彩	額装	
月見草『お春警女物語り』	1975(昭和50)	22.9 × 32.2	板・油彩	額装	
太郎の曲『お春警女物語り』	1975(昭和50)	32.4 × 23.4	板・油彩	額装	
涙(太郎との恋)『お春警女物語り』	1974(昭和49)	37.5 × 22.3	板・油彩	額装	
風の音『お春警女物語り』	1975(昭和50)	26.2 × 44.4	板・油彩	額装	
海辺の氏神様『お春警女物語り』	1976(昭和51)	23.0 × 32.1	板・油彩	額装	
雪風『お春警女物語り』	1975(昭和50)頃	32.0 × 23.2	板・油彩	額装	
雪の日の別れ『お春警女物語り』	1976(昭和51)	25.7 × 43.9	板・油彩	額装	
螢『お春警女物語り』	1975(昭和50)	32.0 × 23.1	板・油彩	額装	
雪の降る日に死す『お春警女物語り』	1975(昭和50)	26.5 × 40.0	カンヴァス・油彩	額装	

第3章 吉原遊女と昭和ロマン、さすらい

馬道七丁目(明治吉原細見記)	1978(昭和53)	33.3 × 45.5	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
籠の鳥達(明治吉原細見記)	1985(昭和60)	45.5 × 33.3	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
明治吉原細見記(デッサン)	1986(昭和61)	20.6 × 12.5	紙・鉛筆淡彩	額装	
明治吉原細見記(デッサン)	1986(昭和61)	26.5 × 18.0	紙・鉛筆淡彩	額装	
チェロの音	1987(昭和62)	60.6 × 45.5	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
雪の花	1990(平成2)	89.4 × 130.3	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
チューリップの少女	1991(平成3)	72.8 × 53.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
紅いヴィオロン	1985(昭和60)	130.3 × 89.4	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
さすらいの楽師	1979(昭和54)	91.0 × 65.2	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
自画像 北島山にて	1979(昭和54)	32.5 × 23.4	板・油彩	額装	
幻燈機のある静物(未完・絶筆)	1994(平成6)	80.3 × 65.2	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵

■関連資料 ※資料はすべて斎藤家所蔵

イーゼル・竿(アトリエにて使用)
テーブル(アトリエにて使用)
座布団(アトリエにて使用)
パレット・画材一式(アトリエにて使用)
筆・刷毛・ペン(アトリエにて使用)
斎藤真一蒐集品 幻燈機ほか(アトリエにて使用)
カメラ・カメラバッグ(警女取材時使用)
ダンスケ(警女取材時使用)
携帯音楽プレーヤー・カセットテープ(警女取材時使用)

作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	備考
-----	-----	---------	-------	----	----

■小林古径記念美術館コレクション展

夏の風景【本画】

翠色	1917(大正6)頃	148.4 × 48.1	紙・彩色	軸装	齋藤弘氏寄贈
家根	大正時代	35.3 × 48.4	紙・彩色	軸装	個人蔵
朝顔	1928(昭和3)頃	119.5 × 36.1	絹・彩色	軸装	齋藤弘氏寄贈
八仙花	1928(昭和3)頃	128.4 × 41.4	絹・彩色	軸装	齋藤弘氏寄贈
めうか	1943(昭和18)頃	28.0 × 34.0	紙・彩色	軸装	
桔梗	1949(昭和24)頃	46.0 × 35.0	紙・彩色	軸装	
唐黍	1915(大正4)頃	24.0 × 54.0	紙・彩色	額装	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託

【写生画】

へちまの花(写生)	1901(明治34)	13.0 × 34.5	紙・墨・鉛筆淡彩	額装	
サルスベリ(写生)	1901(明治34)	13.0 × 19.0	紙・墨・鉛筆淡彩	額装	
朝顔(写生)	—	57.0 × 45.0	紙・鉛筆淡彩	額装	
露草(写生)	—	20.0 × 29.0	紙・鉛筆淡彩	額装	
きゅうり(写生)	—	34.0 × 52.0	紙・鉛筆淡彩	額装	
せみ(写生)	—	21.0 × 27.0	紙・鉛筆	額装	
蜻蛉(写生)	—	31.5 × 41.5	紙・鉛筆淡彩	額装	
オオミズアオ(写生)	1949(昭和24)	26.0 × 34.0	紙・鉛筆淡彩	額装	

(3) 展覧会関連イベント

イベント名	実施日	参加者数	内 容
斎藤真一生誕日プレゼント	7月6日(水)	計64人	入館先着100名に斎藤真一オリジナルグッズ(一筆箋)をプレゼントした。 協賛: ギャラリー朱雀院
学芸員による ギャラリートーク	① 7月24日(日) ② 8月13日(土) ③ 9月4日(日) 各回 13:30～14:00	① 12人 ② 15名 ③ 6名 計33人	学芸員が展示作品や作家等について解説を行った。 〈主な内容〉 展示概要、斎藤真一の生涯や作品解説など
高田瞽女唄と津軽三味線 夕幻ライブ	8月27日(土) 15:00～15:30	計40人	斎藤真一展にあわせて開催された小竹勇生山社中による高田瞽女唄と津軽三味線の演奏会を行った。 主催: 上越シビックサービス 協力: エムエーブランニング
どようワークショップ	会期中の土曜日 10:00～12:00	一 般9人 子ども15人 計24人	斎藤真一の作品の特徴を基にしたミニワークショップを開催した。 7・8月「絵のふちどりをかざろう」(合計9回) 9月「斎藤真一4コマ物語を描こう!」(合計4回)



斎藤真一展報道内覧会



高田瞽女唄と津軽三味線 夕幻ライブ

「齋藤真一展」展示風景



(1) 企画展の概要

展覧会名：**芸能科の記憶 学び舎から飛び立った作家たち**

会 期：令和4年10月8日（土）～12月18日（日）60日間

会 場：小林古径記念美術館

開 催 内 容：かつて高田にあった新潟大学教育学部高田分校芸能科で指導した教官や学び舎を飛び立った卒業生達の多彩な作品52点を展示した。また、当時の写真や資料等も紹介し、地域の芸術振興に寄与した芸能科の記憶をたどる展覧会を開催した。

主な展示作品：川合清《少女》（小林古径記念美術館蔵）、菊地美秋《草むら》（個人蔵）、宮本三郎《アトリエの裸婦》（新潟大学教育学部蔵）、小関育也《遺跡考》（個人蔵）、戸張幸男《良寛さん》（個人蔵）、野中浩俊（吟雪）《含光》（新潟大学教育学部蔵）

※上記作品のほか、音楽科に関する資料と閉校間際に撮影された映像資料を二ノ丸ホールで上映した。

そ の 他：11月11日（金）～11月20日（日）は「紅葉ライトアップ」期間中のため午後7時まで延長開館とした。

担当学芸員：伊藤舞実・市川高子



(2) 入館者の状況

区 分	有 料	無 料	合 計
一 般	1,649 人	836 人	2,485 人
幼・小・中・高	25 人	292 人	317 人
計	1,674 人	1,128 人	2,802 人

・ 1日平均47人、有料入館率：59.74%

〈展示作品リスト〉

作品名	作家名	卒回(卒年)	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	所蔵
■第Ⅱ部 「芸能科の記憶－学び舎から飛び立った作家たち－」 企画展示室							
1. 日本画（絵画科）							
昼の月	池田 尚志	—	—	24.2 × 27.2	紙・彩色	額装	
森	松垣 鶴雄	—	1960(昭和35)頃	45.5 × 51.2	絹・彩色	額装	
少女	川合 清	—	—	52.5 × 45.0	紙・彩色	額装	
草むら	菊地 美秋	8(S35)	1995(平成7)	64.0 × 79.0	紙・彩色	額装	個人蔵
晩秋	伊藤 美和	8(S35)	2000(平成12)頃	63.7 × 88.0	紙・彩色	額装	高田南城高校蔵
朽	吉澤 隆史	9(36)	—	52.9 × 60.5	紙・彩色	額装	
寂光	親跡 峻	13(S40)	1963(昭和38)	51.2 × 62.0	紙・彩色	額装	
学舎	山本 祥二郎	13(S40)	1982(昭和57)頃	89.0 × 114.7	紙・彩色	額装	個人蔵
RAKKA - 21世紀を生きる -	東條 麗子	14(S41)	2003(平成15)	91.0 × 91.0	紙・彩色	額装	個人蔵
船を造る人々－足場づくり－	渡辺 富栄	20(S47)	2018(平成30)	99.5 × 98.0	紙・彩色	額装	個人蔵
松	小林 充也	26(S53)	2020(令和2)	115.0 × 115.0	紙・彩色	額装	個人蔵
Ripple(水泡)	松森 清昭	30(S57)	2021(令和3)	72.0 × 90.7	紙・アクリル・胡粉	額装	個人蔵
草叢 岳花	斎藤 和行	31(S58)	2015(平成27)	116.8 × 45.5	紙・彩色	額装	個人蔵
2. 洋画（絵画科）							
アザミ	牧田 実	—	1929(昭和4)	58.4 × 43.7	カンヴァス・油彩	額装	
奈良の秋	栗原 信	—	1953(昭和28)	72.7 × 91.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
独奏	金子 仁三郎	—	1975(昭和50)	129.0 × 160.7	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
佐渡の春駒	三浦 顕栄	—	1974(昭和49)	115.0 × 89.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
藤 ボナール讃	長森 聰	—	1982(昭和57)頃	72.2 × 52.4	カンヴァス・油彩	額装	
アトリエの裸婦	宮本 三郎	—	1924(大正13)	110.8 × 84.9	カンヴァス・油彩	額装	新潟大学教育学部蔵
抵抗の記録	内山 格	3(S30)	1973(昭和48)	166.8 × 128.7	カンヴァス・油彩	額装	新潟大学教育学部蔵

巣立つ	村山 陽	3(S30)	1960(昭和35)	115.0 × 89.0	カンヴァス・油彩	額装	
おののく人	飯田 春行	4(S31)	1967(昭和42)	91.0 × 91.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
地の宙 - UFO	市橋 哲夫	5(S32)	2020(令和2)	89.3 × 89.3	カンヴァス・アクリル	額装	個人蔵
人穴 ナニモノイウチガワ	矢野 利隆	5(S32)	2021(令和3)	96.0 × 129.4	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
東本町の家	早津 剛	9(S36)	1997(平成9)	90.3 × 116.2	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
次の男	長谷部 昇	10(S37)	1972(昭和47)	104.0 × 101.5	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
北のセメント工場	石川 吉郎	11(S38)	2014(平成26)頃	115.8 × 90.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
鐘起する人	平原 義二郎	13(S40)	2014(平成26)	90.5 × 115.6	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
遺跡考(生命)	小関 育也	14(S41)	2013(平成25)	114.5 × 89.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
不在の鏡	前山 忠	15(S42)	2015(平成27)	50.0 × 38.0	鏡・ロープ	平面	個人蔵
HEISEI - terada	堀川 紀夫	16(S43)	1994(平成6)	99.0 × 99.0	カンヴァス・アクリル	パネル	個人蔵
新しい季節	金谷 範子	20(S47)	2010(平成22)頃	123.5 × 114.0	カンヴァス・アクリル・シエルパウダー	平面	個人蔵
寒ざらし妙高	池上 秀敏	25(S52)	2021(令和3)	89.5 × 115.0	カンヴァス・油彩	額装	個人蔵
激石波.1993-1	磯部 錦司	31(S58)	1993(平成5)	91.0 × 91.0	新聞紙・和紙・墨・アクリル顔料	額装	個人蔵

3. 工芸・彫塑

良寛さん	戸張 幸男	—	1991(平成3)	高 51.2	木彫		個人蔵
影	渡邊 利雄	—	1982(昭和57)	体長 120 (最大)	真鍮・ビー玉		
色絵辛夷文花瓶	齋藤 三郎	—	1962(昭和37)	高 45.2	磁器		
シュプリンゲン	宮田 亮平	—	2011(平成23)	高 73.0	アルミニウム・金銀箔		株式会社新潟放送蔵
M氏の像	新保 順司	5(S32)	2013(平成25)	高 50.0	ブロンズ・鋳造		個人蔵
TORSO ALCAST	戸張 公晴	11(S38)	1995(平成7)	高 81.0	アルミニウム・鋳造		個人蔵
夏の終わりに	横尾 元則	11(S38)	1979(昭和54)	高 120.0	ブロンズ・鋳造		個人蔵
小さな夢	堀田 正	18(S45)	2001(平成13)	高 73.0	石膏		個人蔵
街	本間 公司	30(S57)	1995(平成7)	高 32.6	木・石膏・アルミニウム・アクリル		個人蔵

4. 書道

李白詩	石橋 啓十郎(厚水)	—	1998(平成10)	134.5 × 57.5	紙・墨	軸装	個人蔵
無量寿	竹内 忠雄(臨川)	—	—	20.5 × 44.3	紙・墨	軸装	個人蔵
観	三浦 康廣(思雲)	—	1968(昭和43)	29.8 × 24.3	紙・墨	軸装	個人蔵
良寛和尚和歌一首	加藤 僖一	7(S34)	1981(昭和56)	135.5 × 33.6	紙・墨	軸装	個人蔵
含光	野中 浩俊(吟雪)	12(S39)	1992(平成4)	86.0 × 162.0	紙・墨	額装	新潟大学教育学部蔵
人生	吉田 行雄(六嶺)	6(S33)	2005(平成17)	136.6 × 34.9	紙・墨	額装	個人蔵
酔月	内山 順一(一嶽)	12(S39)	2019(平成31/令和元)	43.5 × 68.0	紙・墨	額装	個人蔵
生	小林 紘一(五空)	12(S39)	—	72.0 × 59.7	板・ジェッソ・墨	額装	個人蔵
光	古川 芳幸(阪水)	30(S57)	—	54.0 × 61.0	紙・墨	額装	個人蔵

作品名	作家名	分類	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	備考
■第I部 「小林古径 人と作品」 古径記念室							
少女	小林 古径	日本画	1898(明治31)頃	67.8 × 54.8	絹・着色	軸装	田中産業株式会社寄贈
牡丹	小林 古径	日本画	1951(昭和26)	59.1 × 76.4	紙・着色	軸装	
大仏殿	小林 古径	日本画	1943(昭和18)	48.2 × 51.3	紙・着色	軸装	植木英子氏寄贈
鳩	小林 古径	日本画	1927(昭和2)	116.0 × 41.7	絹・着色	軸装	久保田洋子氏寄贈
郁子	小林 古径	習作	1942(昭和17)頃	46.3 × 60.0	紙・着色	額装	田中産業株式会社寄贈
菊	小林 古径	習作	—	34.5 × 43.0	紙・着色	額装	
牡丹(絶筆)	小林 古径	日本画	1956(昭和31)頃	54.6 × 72.5	紙・着色	額装	
読売新聞『紺暖簾』挿絵	小林 古径	模写	1902(明治35)	18.5 × 26.5	紙・墨画	額装	
読売新聞『紺暖簾』挿絵	小林 古径	模写	1902(昭和35)	18.5 × 26.5	紙・墨画	額装	
投壺と投壺矢	小林 古径	模写	明治時代末期	26.5 × 37.5	紙・墨画	額装	
銅釣灯籠	小林 古径	模写	明治時代末期	26.5 × 37.5	紙・墨画	額装	
源氏物語絵巻 夕霧	小林 古径	模写	明治時代末期	22.0 × 40.0	紙・墨画淡彩	額装	
後三年合戦絵詞	小林 古径	模写	明治時代末期	26.7 × 38.5	紙・墨画淡彩	額装	
顔料	小林古径旧蔵品	資料	—				深見實郎氏寄贈
筆・刷毛	小林古径旧蔵品	資料	—				深見實郎氏寄贈
絵皿	小林古径旧蔵品	資料	—	径 11.7	陶器		深見實郎氏寄贈
端溪硯	小林古径旧蔵品	資料	—	15.2 × 10.2 × 2.0	石・木		
写生帖(2冊)	小林 古径	資料	明治時代末期/昭和3年		紙		

(3) 展覧会関連イベント

イベント名	実施日	参加者数	内 容
宮田亮平トークライブ	10月9日(日) 14:00～15:00	一般40人 報道3社(新潟日報、上越タイムス、上越よみうり)	非常勤講師として芸能科で指導した宮田亮平氏から、当時の思い出や日本の芸術について語っていただくトークライブを開催した。 講 師：宮田亮平氏(日展理事長) 聞き手：宮崎館長
音楽科卒業生によるミニ・コンサート	①10月16日(日) 14:00～15:00 ②11月3日(木・祝) 13:00～16:00	①21人 ②60人 計81人	芸能科音楽科の卒業生有志による演奏会を行った。 〈演奏者〉 10月16日：3人(声楽・ピアノ) 11月3日：6人(ピアノ、フルート、声楽)
作品鑑賞会	①10月8日(土) ②11月20日(日) ③12月3日(土) 各回14:00～ (約1時間)	①10人 ②3名 ③2名 計15人	学芸員と一緒に展示作品の鑑賞を行った。 展示作品だけでなく、資料を見ながら芸能科についても紹介した。
美術館アートまつり	11月3日(木・祝) 13:00～15:00	大 人：40人 子ども：31人 計71人	出品作家や芸能科卒業生、市民有志がそれぞれの個性を生かしたミニ・ワークショップを開催した。 講師：金谷範子氏、荒川圭子氏、松尾大介氏、梅沢崇氏、上越に伝統文化を普及する会
紅葉ライトアップ	11月11日(金)～ 11月20日(日) 16:00～19:00	計135人 (1日平均15名)	紅葉の時期に合わせて、美術館庭園でライトアップを実施。ライトアップ期間は、美術館も7時まで延長した。
どようワークショップ	会期中の土曜日 10:00～12:00	一 般10人 子ども29人 計39人	10月・11月は紅葉の季節にちなみ「ぺたぺた、しゃかしゃか紅葉ハンカチをつくろう」(合計7回)、12月は「おめでたい絵はがきづくり」(合計3回)を開催した。

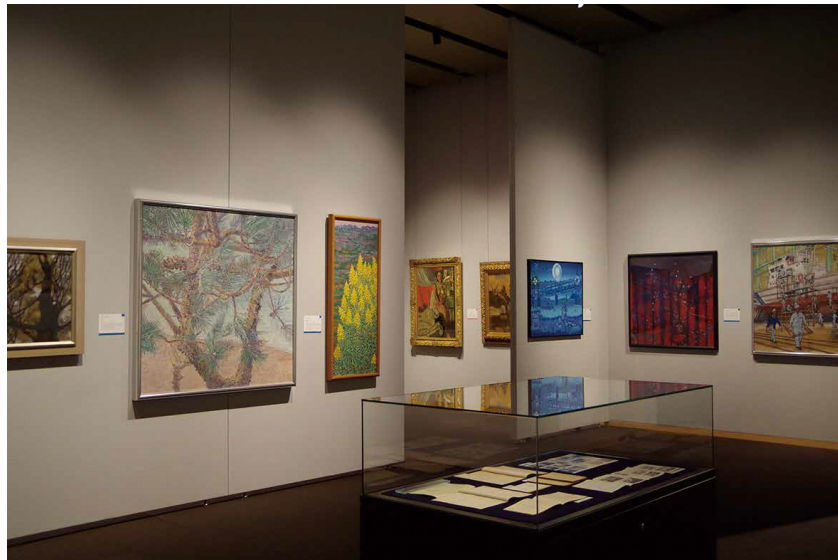


宮田亮平トークライブ



美術館アートまつり

「芸能科の記憶
学び舎から飛び立った
作家たち」展示風景



(1) 企画展の概要

展覧会名：**かわいい美術**

会 期：令和5年1月4日（水）～3月12日（日） 57日間

開 催 内 容：当館所蔵品の中から「かわいい」をテーマとした作品（日本画・油彩画・彫刻・工芸・写真）作品46点を展示した。

主な展示作品：小林古径《りす》、土田麦僊《嬉雀》、加山又造《蝶（ベルシヤ猫）》、鳥海青児《埴輪》、マリー・ローランサン《花束》、岩野勇三《ゆきざり》、渡辺利尙《毛繕いする猫》、北大路魯山人《雪笹小皿》、エミール・ガレ《エナメル野草文コップとカラフセット》、濱谷浩《雪国》

そ の 他：・冬期間のため、開館時間は10:00から16:00までとした。
・2月11日（土）はキャンドルナイトのため19:00まで開館した。
・上越市内小・中・高校生および上越市在住の18歳以下の方は無料とした。

担当学芸員：市川高子・小川陽子



(2) 入館者の状況

区 分	有 料	無 料	合 計
一 般	646 人	1,108 人	1,754 人
幼・小・中	5 人	205 人	210 人
高 校 生	0 人	54 人	54 人
計	651 人	1,367 人	2,018 人

1 日平均 35 人、有料入館率 47.6%

〈展示作品リスト〉

分類	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	備考
■かわいい美術							
第1章 「かわいってこんな感じ」							
日本画	加倉井 和夫	好日	—	45.5 × 53.0	紙・彩色	額装	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
素描	小林 古径	りす	—	22.0 × 42.5	紙・淡彩	額装	
日本画	小林 古径	小犬	1935(昭和10)	77.2 × 47.0	紙・彩色	額装	山岸邦夫氏遺贈
日本画	佐藤 太清	佳日	—	80.0 × 55.5	紙・彩色	額装	寄託作品
日本画	小林 古径	りす	1935頃(昭和10)	121.0 × 36.0	絹・彩色	軸装	齋藤弘氏寄贈
日本画	土田 麦僊	嬉雀	—	127.2 × 25.5	絹・彩色	軸装	高橋信雄氏寄贈
日本画	小林 古径	雛	昭和初期	115.7 × 37.8	紙・彩色	軸装	久保田祥子氏寄贈
日本画	小林 古径	丘	1951(昭和26)	50.6 × 69.4	紙・彩色	額装	
写真	濱谷 浩	ホンヤラ洞で唄う子供たち『雪国 越後』	1940頃(昭和15)	35.5 × 27.9	ゼラチンシルバープリント	額装	
写真	濱谷 浩	村の子供『雪国 桑取谷』	1940頃(昭和15)	35.5 × 27.9	ゼラチンシルバープリント	額装	
写真	濱谷 浩	太刀を持つ子『雪国 桑取谷』	1940頃(昭和15)	35.5 × 27.9	ゼラチンシルバープリント	額装	
西洋画	マリー・ローランサン	花束	1937	44.5 × 54.0	カンヴァス・油彩	額装	田中産業株式会社寄託
洋画	齋藤 俊雄	歩き初め	1966(昭和41)	111.0 × 145.0	カンヴァス・油彩	額装	
工芸	内田 邦夫	印花文大壺	—	口径 15.0 高 20.0	陶器	—	内田邦夫氏寄贈
工芸	内田 邦夫	練上土瓶、湯呑	1946(昭和21)	土瓶：高 10.0 湯呑：高 6.5	炆器	—	内田邦夫氏寄贈
工芸	内田 邦夫	電気スタンド	—	高 32.2 (陶器部分)	陶器	—	内田邦夫氏寄贈
工芸	内田 邦夫	ホールインワン灰皿	—	径 15.4 高 5.0	陶器	—	内田邦夫氏寄贈

第2章 「あれも、これも、みんなかわいい」

日本画	土田 麦儼	多里やの図	—	43.5 × 50.0	絹・彩色	額装	寄託作品
工芸	エミール・ガレ	エナメル野草文コップとカラフセット	1904~1931	カラフ：高24.8 / コップ：高9.0 / 盆：高3.2	ガラス	—	有沢忠一氏寄贈
工芸	エミール・ガレ	草花文香水瓶	1904~1931	口径2.3 / 高21.5	ガラス	—	有沢忠一氏寄贈
工芸	北大路 魯山人	乾山風絵変平向	—	径16.0	陶器	—	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
工芸	北大路 魯山人	双魚文色絵磁器	—	口径20.8 / 高2.8	磁器	—	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
日本画	柴田 長俊	一華	—	26.2 × 18.3	紙・彩色	額装	甲斐園子氏寄贈
日本画	栗原 幸彦	涼夏	—	71.5 × 71.5	紙・彩色	額装	寄託作品
洋画	長森 聰	山歸来とコロキャント	1990頃(平成2)	58.7 × 78.5	カンヴァス・油彩	額装	矢野良子・荻村徹氏寄贈
洋画	長森 聰	秋とあじさいと鹿の頭の酒瓶	1990頃(平成2)	52.0 × 39.5	カンヴァス・油彩	額装	矢野良子・荻村徹氏寄贈
日本画	加山 又造	蝶 (ペルシャ猫)	—	52.3 × 72.2	紙・彩色	額装	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
素描	小磯 良平	大原女	1967(昭和42)	79.0 × 68.8	紙・ペン・淡彩	額装	甲斐園子氏寄贈
日本画	片岡 球子	寒牡丹の咲く富士	—	45.0 × 38.0	紙・彩色	額装	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
洋画	牧野 虎雄	小春	1933(昭和8)	50.0 × 60.6	カンヴァス・油彩	額装	
洋画	高山 辰雄	夏の日	—	39.7 × 31.5	紙・パステル	額装	甲斐園子氏寄贈

第3章 「かわいい？かわいくない？」

日本画	磯野 霊山	布袋図	—	34.0 × 51.4	紙・墨	軸装	磯野次郎氏寄贈
日本画	棟方 志功	大聖不動明王尊像	—	55.7 × 35.0	紙・墨・彩色	軸装	甲斐園子氏寄贈
洋画	朝井 閑右衛門	不動明王	—	14.5 × 7.5	カンヴァス・油彩	額装	甲斐園子氏寄贈
洋画	鳥海 青児	埴輪	—	32.0 × 23.0	カンヴァス・油彩	額装	甲斐園子氏寄贈
洋画	斎藤 真一	軽気球	1962(昭和37)	52.0 × 44.5	カンヴァス・油彩	額装	池田敏章氏寄贈
洋画	斎藤 真一	花野の道『越後替女日記』	1979(昭和54)	23.0 × 32.5	板・油彩	額装	
素描	峯田 敏郎	白い百合	2009(平成21)	30.7 × 32.5	紙・水彩	額装	峯田敏郎氏寄贈
洋画	長森 聰	Cirque Gruss (シルク グルス)	—	70.5 × 89.5	カンヴァス・油彩	額装	矢野良子・荻村徹氏寄贈
彫刻	北村 西望	歎	—	43.7 × 30.0	ブロンズ・鑄造	額装	甲斐園子氏寄贈
日本画	小林 古径	桃太郎 (習作)	—	99.5 × 57.0	紙・墨画淡彩	額装	
素描	川合 清	カクマキ	—	50.0 × 42.0	紙・鉛筆	額装	川合喜美子氏寄贈
彫刻	岩野 勇三	ゆきざり	1967(昭和47)	高75.0	ブロンズ・鑄造	—	矢橋和江氏寄贈
彫刻	渡邊 利雄	毛繕いする猫	1985(昭和60)	高47.0 37.0	アルミ	—	公益財団法人知足美術館寄贈
工芸	北大路 魯山人	雪笹小皿	—	径13.3 高2.5	陶器	—	Jマテ・ホールディングス株式会社寄託
工芸	内田 邦夫	傘立	1982(昭和57)	高49.7	陶器	—	内田邦夫氏寄贈

■ギャラリー 「古径さんが描いた動物たち」

素描	小林 古径	猫	明治末期	9.1 × 18.8	紙・墨画	額装	
素描	小林 古径	猫	明治末期	18.5 × 26.7	紙・墨画	額装	
習作	小林 古径	猫	—	30.0 × 26.5	紙・墨画	額装	
素描	小林 古径	犬	明治末期	26.5 × 18.5	紙・墨画	額装	
習作	小林 古径	犬	1949年(昭和24)	28.0 × 39.0	紙・墨画	額装	
素描	小林 古径	鼠	明治末期	20.0 × 27.0	絹・墨画淡彩	額装	
素描	小林 古径	金魚	明治末期	22.0 × 29.0	絹・墨画淡彩	額装	
素描	小林 古径	猿とわに	明治末期	18.5 × 26.5	紙・墨画	額装	
模写	小林 古径	鷹	明治末期	18.5 × 26.5	紙・墨画	額装	
習作	小林 古径	虎	明治末期	45.0 × 61.0	紙・墨画	額装	

■古径記念室 「小林古径 人と作品」

日本画	小林 古径	蜀黍	1921年(大正10)頃	132.5 × 41.0	絹・彩色	軸装	個人蔵
日本画	小林 古径	鶴	1927年(昭和2)	142.0 × 51.4	絹・彩色	軸装	田中産業株式会社寄託
日本画	小林 古径	寿老	1947年(昭和17)	42.6 × 59.6	紙・墨画彩色	軸装	山岸邦夫氏遺贈
日本画	小林 古径	尾長鳥	1946年(昭和21)	46.8 × 66.0	絹・彩色	軸装	斎藤弘氏寄贈
習作	小林 古径	紅梅	1951年(昭和26)	91.0 × 86.5	紙・墨画彩色	軸装	田中産業株式会社寄託
日本画	小林 古径	椿	昭和前期	27.2 × 24.1	絹・金地着色	額装	斎藤弘氏寄贈
日本画	小林 古径	菊	大正時代	34.5 × 43.0	絹・彩色	額装	山岸邦夫氏遺贈
写生	小林 古径	牡丹	1949年(昭和24)	36.7 × 49.8	紙・鉛筆淡彩	額装	
写生	小林 古径	椿	1950年(昭和25)	36.7 × 49.8	紙・鉛筆淡彩	額装	
写生	小林 古径	椿	1950年(昭和25)	49.8 × 36.7	紙・鉛筆淡彩	額装	
写生	小林 古径	梅	1950年(昭和25)	36.7 × 49.8	紙・鉛筆淡彩	額装	
写生	小林 古径	紅梅・白梅	1950年(昭和25)	59.1 × 59.5	紙・鉛筆淡彩	額装	

(3) 展覧会関連イベント

イベント名	実施日	参加者数	内 容
高校生によるリレートーク	1月28日(土) 13:30～14:30	35人	高校生がリレー形式で1人1点ずつ作品解説を行った。
トーク・フリーデー	①1月15日(日) ②3月12日(日) 10:00～16:00	①7人 ②15人 計22人	来館者が感想などを話しながら作品鑑賞できる機会を設けた。11:00と14:00は学芸員も参加した。
古径生誕140年 キャンドルナイト	2月11日(土・祝) 16:00～19:00	864人	庭園内に雪灯籠を作り、明かりを灯した。画室でオリジナル和菓子と抹茶を提供した。当日は入館無料、茶席を開催
どうようワークショップ	会期中の土曜日 10:00～12:00	38人	1月「墨流しでしおり作り」(合計4回) 2・3月「マーブル模様のキャンドル作り」(合計5回)

【高校生キュレータープロジェクト】

(1) 開催趣旨

若年層の美術館利用が少ないことから、新たな試みとして高校生を対象に美術館での活動経験の場を提供し、美術館利用層の拡大につなげる。また、活動を通じて美術への関心や地域における美術館の役割、自分らしい生き方、さらには社会参加への意欲を育む。

(2) 活動期間

令和4年8月～令和5年3月

(3) 対 象

上越地域の高校に通う高校生10名

※活動期間はボランティア保険に加入

(4) 活動内容

回	活動日・場所	時間	テーマ	活動内容
1	8月3日(水) 二ノ丸ホール 展示室等	10:00～15:00	美術館を知る	・概要説明と施設見学 ・学芸員とのトーク ・鑑賞ワークショップ
2	9月19日(月・祝) 二ノ丸ホール	10:00～15:00	「みること」と「描くこと」を体験しよう	・人物デッサン体験 ・アートカードワークショップ ・展示テーマ企画
3	10月16日(日) 画室・収蔵庫	10:00～15:00	作品と出会う	・作品選定 ・展示プラン作成
4	11月12日(土) 画室	10:00～15:00	どう見せるかを考えよう	・展示プラン作成 ・図面上で作品配置
5	12月4日(日) 二ノ丸ホール	10:00～15:00	解説文を書こう	・解説文作成
6	12月26日(月) 展示室	10:00～15:00	展示に挑戦	・展示作業 ・解説文作成
7	1月28日(土) 展示室・画室	10:00～15:00	思いを伝えてみよう	・高校生によるリレートーク
8	3月11日(土) 二ノ丸ホール	13:00～15:00	修了式	・活動まとめ ・修了証授与

(5) 参加者(学年順)

学年	学校名	参加人数
3年生	上越総合技術高校	4人
2年生	高田北城高校	1人
	直江津中等教育学校(後期2年)	1人
	つくば開成高等学校	1人
	第一学院高等学校高田キャンパス	1人
1年生	高田高校	2人



古径生誕 140 年キャンドルナイト 美術館庭園



古径生誕 140 年キャンドルナイト 古径邸

「かわいい美術」 展示風景



(1) 美術館主催・共催イベント・サービス

イベント名	開催日	会場	参加者数	内容
どようワークショップ	会期中の土曜日 10:00～12:00 全42回実施	二ノ丸ホール	大人：80人 子ども：113人 計193人	子どもから大人まで気軽に楽しめるワークショップを土曜日午前に開催。展示作品や季節に合わせて内容を変え、美術館に親しみを感じてもらおう契機とした。
よちよちタイム	開館中の火曜日 9:00～12:00 (12月～3月は 10:00～12:00) 全39回実施	二ノ丸ホール	保護者：127人 乳幼児：138人 計265人	未就学児の保護者が気兼ねなく美術館で作品鑑賞をしてもらうことを目的に実施。火曜日の午前中を「よちよちタイム」とし、保護者1名無料とした。ホール内に自由に遊ぶおもちゃや絵本を用意した。
彫刻びかびか★大作戦	6月19日(日) 9:00～10:30	高田城址公園内	一般：3人 中学生：1人 計4人	高田城址公園内のブロンズ彫刻作品を清掃し、ワックスを塗って仕上げた。なじみのないブロンズ彫刻に触れ、関心を持ってもらう契機とした。
ベビーマッサージ in 美術館	① 5月31日(火) ② 7月12日(火) ③ 11月1日(火)	画室 庭園	① 6組 ② 6組 ③ 5組 計17組	ベビーマッサージで親子の触れ合いを楽しみ、庭園で親子の写真を撮影。美術館の作品鑑賞やお絵描きなども楽しんだ。
こどものための美術館ガイド 「きつず★アートチャレンジ」	—	美術館内	171人	小林古径のこと、美術館に展示している作品のこと、日本画の絵の具に関する問題を解き、美術館に親しみを持ってもらうための子ども向けの取り組み。
スマートフォン向け アプリ「ポケット学芸員」	—	—	—	展示作品画像や解説を、どこでも自分のスマホから楽しむことができるアプリ。 展示室にある解説文や作品画像を拡大して表示することができ、展覧会によっては翻訳した作品解説を英文で楽しむことができる。

(2) 出張講座

団体名	実施期日	人数	内容
上越教育大学附属小学校6年生	4月22日	36人	日本画体験
高田特別支援学校中学部	5月13日	6人	
上越特別支援学校高等部	5月23日	4人	
美守小学校6年生	7月8日	22人	
八千浦地区公民館	8月26日	8人	
柿崎中学校美術部	7月27日	16人	
上越教育大学附属小学校6年生	7月14日	36人	絵の具作り
合計		128人	

(3) 画材貸出

◆教材キット内容

小林古径が使用したものに近い筆、絵具を揃えた。使用キットは人数に応じて用意する。

キット種類	内容
見本キット(木箱入り)	岩絵具原石7種、筆原材料5種、紙原材料4種、岩絵具6種、墨、硯、金泥、金箔、銀箔、膠、筆、和紙、絹、ルーペ
使用キット	岩絵具セット2箱、水干絵具セット2箱、胡粉、顔彩セット2箱、墨、硯、筆、金箔、銀箔、箔切、箔はさみ、箔切台、砂子筒4本、砂子巻棒、絵皿、乳鉢・棒、筆洗い、膠鍋、匙、電熱器、膠、新鳥の子紙
日本画制作過程見本	写生から小下図、下図写しを経て骨描き、彩色、仕上げに至るまでの過程(8工程)を見本(F6サイズボード)で示す。
原寸大デジタル複製画	小林古径の複製画を貸与する。貸与点数は一回につき約5点までとする。

貸し出し状況

団体・学校名	期日	内容
洞谷亜里佐氏(上越教育大学教授)	4月20日(水)～4月22日(金)	大学の講義で使用するため、日本画キット貸出
	4月28日(木)～5月11日(水)	
	6月16日(木)～7月7日(木)	
	10月4日(火)～10月12日(水)	
上越教育大学附属小学校6年2組	4月25日(月)～5月13日(金)	日本画を体験するため、使用キット貸出

(4) 団体見学

期 日	人数	団体・学校名
4月1日(金)	14人	フリーウェイツアー
4月3日(日)	14人	コンベンションツアー
4月4日(月)	14人	えちごトキめき鉄道「プレミアムツアー」
	4人	上越高校
4月5日(火)	35人	トラマスツアー
4月6日(水)	16人	コンベンションツアー
4月7日(木)	21人	トラマスツアー
4月8日(金)	15人	コンベンションツアー
4月9日(土)	14人	コンベンションツアー
4月10日(日)	16人	コンベンションツアー
4月11日(月)		ギャラリー祥 ソロプチミスト
4月22日(金)	34人	上越教育大学附属小学校6年生
	4名	上越教育大学(洞谷・松尾先生)
5月2日(月)	68人	高田商業高校
5月18日(水)	14人	上越テクノスクール木造建築科
5月24日(火)	52人	高田高校
5月26日(木)	38人	マルケーグリーンツアー (富寿司で寿し三昧と小林古径記念美術館「富岡惣一郎展」)
	24人	ロータリークラブ
	6人	北陸地方整備局
	17人	高田高校
5月27日(金)	35人	春日中学校
	39人	マルケーグリーンツアー (富寿司で寿し三昧と小林古径記念美術館「富岡惣一郎展」)
	23人	高田高校
5月31日(火)	44人	マルケーグリーンツアー (富寿司で寿し三昧と小林古径記念美術館「富岡惣一郎展」)
6月1日(水)	30人	高田高校
6月3日(金)	17人	見附市文学散歩
6月4日(土)	58人	春日山ロータリークラブ
6月7日(火)	108人	上越教育大学附属中学校
6月14日(火)	53人	上越総合技術高校
6月15日(水)	32人	上越総合技術高校
6月16日(木)	38人	大町小学校
6月17日(金)	7人	上越教育大学五十嵐研究室
7月2日(土)	23人	与板コミュニティプラザ
7月13日(水)	23人	頸城地区公民館
7月20日(水)	21人	上越総合技術高校
7月21日(木)	22人	春日山ロータリークラブ
7月23日(土)	23人	高田商業高校
7月27日(水)	16人	柿崎中学校 美術部
8月1日(月)	12人	観光ボランティアツアー
9月15日(木)	33人	上越総合技術高校
9月17日(土)	15人	森宮観光 だるま会
9月21日(水)	32人	上越総合技術高校
10月15日(土)	23人	直江津金葉会
10月18日(火)	3人	上越教育大学松尾先生
10月18日(火)	18人	長野市芹田公民館
10月21日(金)	12人	三和商工会建築部会
10月22日(土)	14人	自治大学OB
10月23日(日)	19人	頸城地区公民館
11月3日(木)	6人	クラブツーリズム
11月8日(火)	8人	三和商工会女性部
11月18日(金)	22人	ナイトツアー
	7人	天使幼稚園
11月29日(火)	16人	上越親子劇場
12月7日(水)	37人	上越教育大学附属小学校6年生
12月13日(火)	14人	三郷小学校
2月18日(土)	39人	ハミングツアー
3月1日(水)	27人	糸魚川能生地区公民館
3月10日(金)	37人	妙高市立新井中央小学校

※合計 58 件、うち学校団体 19 件 (小学校 5 件、中学校 3 件、高校 11 件)

(5) 博物館実習(上越市立歴史博物館との共同事業)

実習日: 令和4年8月2日(火)～8月6日(土)5日間

実習者: 1人(中央大学文学部人文社会学科3年)

(1) 作品・資料の収集

①購入作品：該当なし

②寄贈作品

No.	分類	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数
1	日本画	小林 古径	重盛	1911年頃	絹・彩色	1幅
2	日本画	小林 古径	梅にうぐいす	1947年	紙・彩色	1幅
3	日本画	梶田 半古	静御前	明治末～大正初	絹・彩色	1幅
4	日本画	梶田 半古	寿老蓬萊山図	明治末～大正初	絹・彩色	3幅対
5	日本画	梶田 半古	寒山拾得	1907年頃	絹・彩色	1幅
6	日本画	梶田 半古	観音大士図	1909年	絹・彩色	1幅
7	日本画	梶田 半古	唐美人之図	明治末～大正初	絹・彩色	1幅
8	日本画	吉田 玉潤	童子図屏風(仮題)	—	紙・金地彩色	2曲1双屏風
9	油彩画	矢野 利隆	人穴 ナニモナイウチガワ	2021年	カンヴァス・油彩	1面
10	油彩画	金子 仁三郎	独奏	1975年	カンヴァス・油彩	1面
11	油彩画	金子 仁三郎	なかよし	1946年	カンヴァス・油彩	1面
12	油彩画	山田 春美	あけがた・ゆふぐれ	1987年	カンヴァス・油彩	2面
13	版画	山田 春美	うわさ	—	紙・リトグラフ	1枚
14	版画	山田 春美	無題	—	紙・リトグラフ	1枚
15	彫刻	岩野 勇三	りさ	1982年	ブロンズ・鑄造	1点
16	彫刻	岩野 勇三	なかま	1986年	ブロンズ・鑄造	1点
17	油彩画	岩野 勇三	高田の風景	1950年	カンヴァス・油彩	1面
18	工芸	高井 進	るり油滴大壺	2001年	磁器	1口
19	工芸	高井 進	黄磁長頸壺	—	磁器	1口
20	工芸	高井 進	青磁彩泥壺	1998年	磁器	1口
21	書	石橋 厚水	般若心経	1975年	紙・墨	1幅
22	書	竹内 臨川	無量寿	—	紙・墨	1幅
23	書	加藤 儔一	良寛和尚和歌一首	1981年	紙・墨	1幅

③寄託作品：該当なし

④所管替え作品(春日新田小学校から所管替え)

No.	分類	作家名	作品名	制作年	材質技法	員数
1	油彩画	玉井 力三	三笠艦橋の図(模写)	1929	カンヴァス・油彩	1面

以上 24件

(内訳) 日本画8件、油彩画6件、版画2件、彫刻2件、工芸3件、書3件

(2) 展示・保存環境調査

美術館内の展示保存環境が美術作品の展示に対して適正であるかを確認するため、下記のとおり気中濃度測定を実施した。

測定項目：アンモニア、ギ酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド

測定箇所：古径記念室・古径記念室展示ケース、企画展示室、企画展示室展示ケース、一時保管庫内

期 日：9月28日(水)

実施機関：一般財団法人上越環境科学センター

(3) 作品・資料の貸与

展覧会名等	作家名	貸出作品	貸出期間
貸与先：上越市立歴史博物館			
「常設展 第一期」 会期：3月10日(木)～6月19日(日)	斎藤 真一	《陽『越後替女日記』(銅版画)》 《灯『越後替女日記』(銅版画)》 《星『越後替女日記』(銅版画)》	3月9日(水)～6月20日(月)
「常設展 第二期」 会期：6月21日(火)～9月11日(日)	斎藤 真一	《待合所にて『替女』『越後替女日記』》 《赤倉替女『越後替女日記』》 《おつねの死『越後替女日記』》 《三人の替女 冬の旅支度『越後替女日記』》	6月20日(月)～9月11日(日)
「常設展 第三期」 会期：9月13日(火)～12月11日(日)	斎藤 真一	《杉本替女 しま》 《雨の日『越後替女日記』》 《みさお替女の祈り『越後替女日記』》 《赤いとんぼ玉替 母の片見『越後替女日記』》	9月11日(日)～12月13日(火)
「常設展 第四期」 会期：12月14日(水)～令和5年3月12日(日)	斎藤 真一	《三人替女『越後替女日記』》 《明星 妙高谷『越後替女日記』》 《杉本キクイ談記『越後替女日記』》 《立春・初夏・晩秋・冬『越後替女日記』》	12月13日(火)～ 令和5年3月13日(月)
貸与先：特定非営利活動法人高田替女の文化を保存・発信する会(会場：替女ミュージアム高田)			
「斎藤真一生涯100年企画展」 会期：7月2日(土)～9月25日(日)	斎藤 真一	《お春の愁い『お春替女物語り』》 《替女『越後替女日記』》	6月27日(月)～7月22日(金)

(1) 講演会講師

団体名	日時	内容	講師	参加者数
小林古径記念美術館友の会	5月28日(土) 14:00~15:00	富岡惣一郎展について	小川陽子	30人
生誕140年小川未明顕彰フォーラム	7月2日(土) 13:00~16:00	・小林古径顕彰事例紹介 ・顕彰フォーラムパネリスト	笹川修一	50人
小林古径記念美術館友の会	11月26日(土) 14:00~15:00	芸能科展について	伊藤舞実	21人

(2) 依頼原稿執筆

団体名・書籍名等	掲載日	内容
上越タイムス紙上連載 「白、追い求めて」	① 5月21日(土) ② 5月24日(火) ③ 5月25日(水) ④ 5月27日(金) ⑤ 6月3日(金)	「富岡惣一郎展」作品紹介(全5回) 執筆者:①③⑤小川陽子 ②④市川高子
新潟日報紙上記事 「展覧会へようこそ「生誕100年斎藤真一展」	7月23日(土)	執筆者:笹川修一
上越タイムス紙上連載 「替女と郷愁、さすらい」	① 8月6日(土) ② 8月7日(日) ③ 8月10日(水) ④ 8月11日(木) ⑤ 8月12日(金) ⑥ 8月13日(土)	「斎藤真一展」作品紹介(全6回) 執筆者:①③⑥笹川修一 ②④⑤小川陽子
上越タイムス紙上連載 「芸能科の記憶」	① 12月2日(金) ② 12月3日(土) ③ 12月6日(火) ④ 12月7日(水)	「芸能科展」作品紹介(全4回) 執筆者:①③伊藤舞実 ②市川高子 ④宮崎俊英
「高田で作画を貫いた男 原本賢治遺作集」 (発行:六人の会)	11月19日発行	執筆者:笹川修一「原本賢治と東光会」 (編集協力:小林古径記念美術館)
上越タイムス紙上連載 「かわいい美術」	① 2月25日(土) ② 2月26日(日) ③ 3月1日(水) ④ 3月4日(土) ⑤ 3月5日(日)	「かわいい美術」作品紹介(全5回) 執筆者:市川高子、高校生キュレーター
新潟日報紙上記事 「展覧会へようこそ 「洞谷亜里佐展」(弥彦の丘美術館)	3月2日(木)	執筆者:笹川修一

(3) 展覧会図録作成

書籍名等	発行日	編集担当	執筆内容
『芸能科の記憶 学び舎から飛び立った作家たち』 (発行:小林古径記念美術館)	令和4年10月発行	伊藤舞実 市川高子 宮崎俊英	伊藤舞実 「高田分校芸能科について」「各章扉解説」「作家略歴」(洋画・書道) 「教育学部芸能学科年表」 市川高子 「作家略歴」(日本画・工芸・彫塑) 宮崎俊英 「高田分校芸能科が残したもの」

(4) 展覧会調査及び作家作品調査

内容	調査日	担当	場所
小林充也作品調査	4月20日(水)	伊藤舞実	作家宅(市内)
東條麗子作品調査	4月20日(水)	伊藤舞実	作家宅(妙高市)
池上秀敏作品調査	4月20日(水)	伊藤舞実	作家宅(妙高市)
矢野利隆作品調査	4月22日(金)	伊藤舞実	作家宅(松戸市)
金子仁三郎作品調査	4月22日(金)	伊藤舞実	作家宅(浦和市)
飯田春行作品調査	4月28日(木)	市川高子	作家宅(市内)
吉田六嶺作品調査	4月28日(木)	伊藤舞実	所蔵先(市内)
斎藤真一展調査	4月28日(木)	笹川修一	ギャラリー-朱雀院(東京)
小林五空作家・作品調査	5月2日(月)	伊藤舞実	作家宅(上越市)
堀川紀夫作品調査	5月11日(水)	伊藤舞実	作家宅(市内)
市橋哲夫作品調査 加藤僖一作品調査 新潟大学旭町学術資料展示館	5月12日(木)	市川高子 伊藤舞実	作家宅ほか(新潟市)
長谷部昇作品調査 飯田春行作品調査	5月16日(月)	伊藤舞実	作家宅(新潟市、新発田市)
金谷純子作品調査	5月19日(木)	伊藤舞実	作家宅(市内)
近藤フヂエ 芸能科開取り調査 渡辺富栄作品調査 本間公司作品調査	5月20日(金)	市川高子 伊藤舞実	作家宅(新潟市)
古川芳幸作品調査	5月27日(金)	伊藤舞実	ギャラリー-祥(市内)

堀田正作品調査	6月3日(金)	市川高子	作家宅(見附市)
古川芳幸作品調査	6月8日(水)	宮崎俊英 伊藤舞実	所蔵先(市内)
春日山神社作品調査 (菅井蘭亭作品ほか)	6月9日(木)	宮崎俊英 笹川修一	春日山神社(市内)
横尾茂作品調査	6月9日(木)	市川高子	所蔵者宅(市内)
芸能科展資料調査	6月15日(水)	宮崎俊英 市川高子 伊藤舞実	旧高田地区公民館 (市内)
新保順司作家調査	6月28日(火)	市川高子	作家宅(市内)
芸能科展調査	7月12日(火)	伊藤舞実	小熊写真館(市内)
吉田玉潤作品調査	12月13日(火)	笹川修一 市川高子	所蔵先(柏崎市)
山田春美作品調査	12月14日(水)	宮崎俊英 市川高子	作家宅(妙高市)
小林古径作品調査	12月26日(月)	笹川修一 伊藤舞実	所蔵先(新潟市)
小林古径作品調査	1月19日(木)	笹川修一	所蔵先(東京都)
柴田長俊展調査	1月19日(木)	笹川修一	所蔵先(東京都)
齋藤三郎展調査	2月8日(水)	市川高子	作家宅(市内)
齋藤三郎作品調査	2月9日(木)	市川高子 宮崎俊英	所蔵先(市内)
齋藤三郎作品調査	2月18日(金)	市川高子	所蔵先(市内)
齋藤三郎作品調査	2月27日(月)	市川高子	所蔵先(市内)
洞谷亜里佐作家調査	2月28日(火)	笹川修一	上越教育大学
齋藤三郎作品調査	3月1日(水)	市川高子	所蔵先(市内)
小林古径作品調査	3月6日(月) 3月8日(水)	笹川修一	所蔵先(広島・大分)
齋藤三郎作品調査	3月22日(水)	市川高子	所蔵先(市内)
齋藤三郎作品調査	3月23日(木)	市川高子 小川陽子	所蔵先(市内)

(5) 研究会・研修等

研修名	日時	担当	会場
新潟県博物館協議会総会・研究発表会	4月25日(月)	宮崎俊英	新潟日航ホテル
第2回(第71回)一般社団法人全国美術館会議社員総会	6月2日(木)、3日(金)	笹川修一 小川陽子	ベルクラシック甲府 (山梨県甲府市)
令和4年度国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会	6月16日(木)、13:15~17:05	笹川修一	オンライン
全国美術館会議小規模館研究部会第53回研修会・会合	9月13日(火)、14日(水)	宮崎俊英 笹川修一	市立小樽美術館 (北海道小樽市)
博物館法改正に伴う新登録制度に係る説明会 (文化庁・日本博物館協会主催)	令和5年2月1日(水) 13:30~16:30	笹川修一	オンライン
全国美術館会議第37回学芸員等研修会 「美術館の防災対策について」	令和5年3月20日(月) 10:00~17:30	笹川修一	オンライン
新潟県博物館協議会理事会	令和5年3月27日(月)	宮崎俊英	新潟市内

広報活動等

(1)上越市有線放送協会「小林古径記念美術館を訪ねて」

内 容	放送日	担当
富岡惣一郎展作品紹介とイベント告知	4月7日(木)	小川陽子
国際博物館の日無料入館、古径邸庭園の魅力案内	5月5日(木)	小川陽子
斎藤真一展について	6月2日(木)	笹川修一
斎藤真一展作品紹介とイベント告知	7月7日(木)	笹川修一
斎藤真一と高田瞽女	8月4日(木)	笹川修一
高田分校芸能科について	9月1日(木)	伊藤舞実
芸能科の記憶展作品紹介とイベント告知	10月6日(木)	伊藤舞実
文化の日と文化勲章と小林古径、庭園の紅葉情報	11月3日(木)	笹川修一
かわいい美術展について	12月1日(木)	市川高子
かわいい美術展作品紹介とイベント告知	1月5日(木)	市川高子
古径生誕140年とキャンドルナイト	2月2日(木)	小川陽子
次年度企画展ラインナップ(新収蔵品展ほか)	3月2日(木)	市川高子

(2)FMじょうえつ

内 容	放送日	担 当
上越市広報Jステーション「富岡惣一郎展」	4月25日(月)	市川高子

(3)美術館ホームページアクセス数とSNS (Facebook) 投稿数とフォロワー数

	美術館ホームページ	SNS (Facebook)	
	ページビュー数	投稿件数	一番反応のあった投稿(閲覧数)
4月	5,330回	11件	古径忌紹介 (146)
5月	5,695回	3件	古径邸・庭園ツアー開催報告 (145)
6月	5,835回	5件	瞽女ミュージアムとの相互割引 (268)
7月	5,806回	7件	斎藤真一展が開幕 (298)
8月	4,596回	3件	高校生キュレータープロジェクト、スタート! (310)
9月	4,431回	4件	芸能科展のおしらせ (425)
10月	5,663回	5件	芸能科展開幕 (275)
11月	4,365回	7件	庭園ライトアップ&延長開館 (473)
12月	2,862回	6件	かわいい美術展のおしらせ (409)
1月	3,806回	7件	トーク・フリーデー開催 (195)
2月	5,288回	3件	古径生誕140年キャンドルナイトを開催 (154)
3月	4,955回	3件	かわいい美術人気投票 (207)

※現在のフォロワー数：204人(令和3年度末時点：164人)

(4)取材協力

新潟日報社朝刊「小林古径生誕140年「描線」の軌跡」(全7回)
掲載期間：1月6日(金)及び令和5年1月25日(水)～2月8日(水)

